

▼編集後記

『ゲシヒテ』三号をお届けいたします。多くの論考が寄せられたことは喜ぶべきことなのですが、気になったこともあります。研究の狙いや論旨がはっきりしない論考が多かつたうえに、文意がはっきりしない箇所や参照史料が明示されていない箇所が目立つ論文もありました。何か大慌てで書いたという印象です。審査の結果、一編については掲載をお断りし、他の多くの論考も書き直しをお願いしました。一定の水準をクリアした論考だけを掲載することによって、本誌の価値を高めたというのが編集委員の一致した考えでした。

結果的には、第一次大戦前、戦間期、戦後とさまざまな時代を扱った論文・研究ノートを掲載することができました。また、アルバニアに関する研究ノートもあり、地域的にも広がりが出きました。本誌を今後も維持していくためには、それなりの工夫や努力が必要なことを痛感した次第です。今後、編集委員会体制、査読方法、原稿締切時期などを見直していきたいと思っています。会員の皆様のご協力をお願いします。(羽漫)

今号から編集実務を担当させていただくことになりました。今回執筆された著者の肩書きをご覧いただいてもお分かりのように、この三号は若手研究者を中心に構成されています。研究をめぐる環境が一昔前と比べても大きく様変わりした昨今、学界ではさまざまな形で新しい動きが顕在化しております。この雑誌もその一つの形として位置づけることができるでしょうが、それに若手も積極的に参加しようとしているのは、やはり何より喜ばしいことだと思われます。特に今号は、前号までに比べて若手を中心として投稿希望者が飛躍的に多くなりました。実際に掲載された論考はそれよりも少なくなりましたが、いづれにせよこの『ゲシヒテ』が徐々に認知されてきた表れでしょう。たしかに、この雑誌が単なる業績至上主義の好餌とならないためにもある程度の掲載基準が設定されるのは避けられませんが、特に若手の方々にはこれをむしろ自身の研究水準を高める好機と捉えて、臆することなく挑戦していただきたいと思います。(HM)

▼編集委員

服部 伸 (同志社大学)

高橋秀寿 (立命館大学)

中野智世 (京都産業大学)

▼編集実務

村上宏昭 (関西大学非常勤講師)

ゲシヒテ

第3号

2010年3月31日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会 (代表・中野智世)

〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学文学部 服部伸研究室内

▼印刷

株式会社オーエム